

ドイツ語（初級 B） 第 22 回 nicht の位置、受動

範囲：教科書第 13 課コラム、第 14 課 A (S. 54-56)

《今回の基本例文》

73. Das Geschäft wird um acht Uhr geöffnet. (CD68-1)

そのお店は 8 時に開かれる。

[受動、時刻を表す um]

74. Wir werden von unserem Freund eingeladen. (CD68-4)

私たちは友人に招待されている。

[受動、行為の主体を表す von、(過去分詞 (分離動詞))]

75. Der Garten muss immer sauber gehalten werden. (CD69-1)

庭は常に清潔に保たれていなければならない。

[受動 (話法の助動詞)]

76. Die Stadt wurde durch den Krieg zerstört. (CD68-2)

その都市は戦争で破壊された。

[受動 (過去形)、行為の媒体・手段を表す durch]

77. Der Verletzte ist gleich ins Krankenhaus gebracht worden. (CD67-4)

その負傷者の男はすぐ病院に運ばれた。

[受動 (現在完了)、(現在完了 (sein 支配))、(形容詞の名詞化)]

78. In Japan wird links gefahren. (CD70-1)

日本では車両は左側通行である。

[自動詞の受動]

79. Die Hotelzimmer sind schon reserviert. (CD71-3)

ホテルの部屋はもう予約が埋まっている。

[状態受動]

I nicht の位置

■ nicht の位置 (S. 54)

◇ **nicht** の位置については、やや複雑な規則がある。**nicht** と **kein** の使い分けを扱ったときにやや触れた (教科書 S. 28) が、ここでもう少し詳しく解説する。ただし、どちらかといえば中上級者向けの文法事項であり、ざっと目を通してもらえればよく、より本格的な説明は本資料 S. 7-8 の「参考」にゆずる。

◇ **部分否定** の場合、**nicht** は否定したい語句の一つ前に置く (教科書の 2)。

Er fährt nicht heute mit dem Zug nach Zürich.

彼が列車でチューリヒに行くのは、今日ではない。

* **nicht** を **heute** の一つ前に置き、**heute** だけを否定している。ほかの副詞句や主語に対しても、同じことができる。

◇ 全否定の場合、基本的には文末に置く（1 の a）を参照）。

Er kauft das Buch nicht.

彼はその本を買わない。

◇ ただし、全否定であるにもかかわらず nicht を文末に置かない場合もあり、それは以下の通り。

- ・文末に動詞要素（話法の助動詞を含む文における不定詞、現在完了における過去分詞、受動における過去分詞）がある場合 → nicht は不定詞や過去分詞の一つ前（1 の b）。

Er kann heute nicht kommen.（話法の助動詞の場合）

彼は、今日は来られない。

Er ist heute nicht gekommen.（現在完了の場合）

彼は、今日は来なかった。

- ・文末に分離動詞の前綴りがある場合 → nicht は前綴りの一つ前（1 の b）。

Er kommt heute nicht mit.

彼は、今日は一緒に来ない。

- ・文末に述語内容語がある場合 → nicht は述語内容語の一つ前（1 の c）。

Ich bin nicht krank.

私は病気ではない。

- ・文末に位置や移動の目的地を示す前置詞句がある場合 → nicht は前置詞句の一つ前（1 の c）。

Er wohnt nicht in München.（位置の場合）

彼はミュンヘンには住んでいない。

Er fährt heute nicht nach Berlin.（移動の目的地の場合）

彼は今日、ベルリンに行かない。

- ・文末に動詞＋前置詞や形容詞＋前置詞の熟語がある場合 → nicht は前置詞句の一つ前（1 の c）。

* 教科書 S. 24 の⑥や S. 53 の③で学んだようなもののこと。

Sie interessierte sich nicht für moderne Kunst.

彼女は現代美術には関心がなかった。

* 教科書 S. 53 で学んだ再帰動詞の熟語、sich⁴ für et⁴. interessieren を使用している。

- ・文末に自立性のない目的語がある場合 → nicht は目的語の一つ前（教科書 S. 28）。

* 「自立性のない目的語」とは、教科書 S. 28 の Bescheid wissen（事情がわかっている）のような、目的語＋動詞で構成された熟語的表現における目的語のこと。

Ich weiß nicht Bescheid.

私には事情がわからない。

◇ 相関的接続表現 nicht A, sondern B は「A ではなく B」の意味（英語の not A but B に相当）。

Er fährt heute nicht mit dem Zug, sondern mit dem Auto nach Zürich.

彼は今日、列車ではなく自動車でチューリヒに行く。

II 受動

A. 受動 (S. 55)

1 受動の現在人称変化 2 受動の時称

werden → 第 2 位（定動詞の位置）

過去分詞 → 文末

◇ ドイツ語の受動態（動作受動）は、werden＋過去分詞によってつくられる。意味は「～される」。

* 英語の受動態が *be*＋過去分詞なのと異なる。なお、ドイツ語でも *sein*＋過去分詞というかたちは存在するが、その場合は状態受動と呼ばれる特殊なかたち（「～されてある」）となる。（⇒教科書 S. 57）

◇ 受動の現在形は、werden を定動詞第 2 位の位置に置き、過去分詞を文末に置く語順となる。

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	werden の現在人称変化形	…	過去分詞

* もちろん、定動詞以外の動詞要素を文末に置くのは、話法の助動詞を用いた文や未来形の文における不定詞、現在完了における過去分詞でおなじみの語順である。

Der Supermarkt wird um 8 Uhr geöffnet.

そのスーパーマーケットは 8 時に開けられる（開店する）。

* もちろん、*geöffnet* は *öffnen* の過去分詞。*öffnen* は *arbeiten* 型で、過去分詞に語調を整える *e* を必要とする。

受動の過去形は、この *werden* を過去人称変化形（*wurde* など）に変えればよい。

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	<i>wurde</i> の過去人称変化形	…	過去分詞

上の例文を過去形にすれば、

Der Supermarkt wurde um 8 Uhr geöffnet.

そのスーパーマーケットは 8 時に開けられた（開店した）。

◇ 受動の現在完了は、*sein* を定動詞第 2 位の位置に置き、「過去分詞 *worden*」を文末に置く。

* 英語の *have been* 過去分詞に相当するが、語順はまったく異なり、*have* ではなく *sein*、*been* (*be* の過去分詞) ではなく *worden* (*werden* の過去分詞) が用いられるところに注意。

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	<i>sein</i> の現在人称変化形	…	過去分詞 <i>worden</i>

・ *worden* は、*werden* の 2 つある過去分詞のうちの 1 つ。*werden* の 2 つの過去分詞（*geworden* と *worden*）の使い分けについては、授業第 18 回「不規則変化動詞のまとめ」S. 1 も参照。

・ 定動詞が *sein*なのは、*werden* が *sein* 支配であるため。（⇒教科書 S. 49）

Der Supermarkt ist um 8 Uhr geöffnet worden.

そのスーパーマーケットは 8 時に開けられた（開店した）。

* 受動の現在完了は、動詞要素が 3 つになってしまう複雑な文であるが、日常生活でも比較的良好使用されるため、覚えておいた方がよい。一方、受動の過去完了や受動の未来は、現段階では特に覚えなくてよい。

3 能動文と受動文の対応

受動文の動作主体 → ほぼ **von** で表す（英語の *by*）

◇ 能動文と受動文の対応の公式は以下の通り。

能動	→	受動	備考
1 格	→	von+3 格 ／durch+4 格	省略可、主語が man のときは必ず省略
2 格	→	2 格	そのまま
3 格	→	3 格	そのまま
4 格	→	1 格	絶対に必要

・能動文「A は B を〇〇する」を受動文「B は A によって〇〇される」に直すわけなので、能動文の 4 格目的語（B） はもちろん受動文では主語（1 格）となる。

・基本的には、受動文における動作主体（上でいう「A によって」）は **von+3 格**（英語の *by ...*）で表す。動作主体が媒体、手段の場合は **durch+4 格** で表すことになっているが、現代語ではあまり区別されず、**von+3 格** が基本。

・能動文の 2 格、3 格、副詞、副詞句は受動文でもそのまま引き継がれる。

（能動）Die Polizei verhaftete den Dieb sofort.

(1 格) (4 格)

警察は泥棒をただちに逮捕した。

（受動）Der Dieb wurde von der Polizei sofort verhaftet.

(1 格) (von+3 格)

泥棒は警察によってただちに逮捕された。

◇ 能動文を受動文に変換するとき、受動文の主語になれるのは元の文の 4 格目的語だけである。英語の場合、第 4 文型 (SVO_iO₂) の第 1 目的語（～に）、第 2 目的語（～を）ともに、受動文の主語になりうる。しかし、ドイツ語では、3 格は受動文の主語になれない。

（能動）He gave her a flower.

彼は彼女に花をあげた。

（受動）○ She was given a flower (by him).

彼女は（彼に）花をもらった。

（受動）○ A flower was given (to) her (by him).

花が（彼によって）彼女に与えられた。

* 英語では、「彼女は花をもらった」も「花が彼女に与えられた」もつくることができる。

（能動）Er gab ihr eine Blume.

彼は彼女に花をあげた。

—（受動）× Sie wurde eine Blume gegeben.

* 一方、ドイツ語では能動文の 3 格目的語は受動文の主語にできないので、「彼女は彼に花をもらった」式の文はつくりえない。

（受動）○ Eine Blume wurde ihr (von ihm) gegeben.

花が（彼によって）彼女に与えられた。

* このような「花が彼女に与えられた」式の文なら可能。

◇ 能動文の主語が漠然とした人間を表す man（「人々は～」）のとき、受動文では von や durch で動作主体を表すことができない。その場合、受動文では動作主体は削除してよい。

* man には 1 格しかなく、3 格や 4 格にはできず、*von man というかたちはあり得ないので注意。

（能動）Auch in Österreich spricht man Deutsch.

（1 格）（4 格）

オーストリアでも人々はドイツ語を話している。

（受動）Auch in Österreich wird Deutsch gesprochen.

（1 格）

オーストリアでもドイツ語が話されている。

4 話法の助動詞を含む受動文 (S. 56)

◇ 話法の助動詞を含む受動文（現在形）を図式化すれば、

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	話法の助動詞の現在人称変化形	…	過去分詞 <u>werden</u>

話法の助動詞を過去人称変化形（musste、konnte など）にすれば、過去形になる。

* 話法の助動詞を含む受動文も動詞要素が 3 つになってしまう複雑な文であるが、日常生活でも比較的良好使用される。

Der Kranke muss operiert werden.

その患者は手術されなければならない。

Der Kranke musste operiert werden.

その患者は手術されなければならなかった。

5 自動詞の受動

◇ 受動は「Aを○○する」という能動を「Aは○○される」に書き換えたものが普通であり、よって基本は他動詞の受動である。ただし、場合によっては自動詞の受動もつくることができる。

* 英語の場合、自動詞＋前置詞で意味上は他動詞となる熟語で自動詞の受動が現れる。例えば、laugh（笑う）は自動詞で、laugh at（～を笑う）としてはじめて他動詞的に使える。これを受動文にすると、次のようになる。

He was laughed at by everybody.

◇ 教科書の説明がわかりにくいので、次のように考えてほしい。

- ・ 自動詞の受動は、文頭に形式主語 es を置き、werden を 3 人称単数形（wird）に変化させてつくるのを原則とする。

（能動）Bei uns arbeitet man auch samstags.

私たちのところでは人々は土曜日にも働く。

（受動）Es wird bei uns auch samstags gearbeitet.

私たちのところでは土曜日にも働く。

* ドイツ語の場合、こうした man を主語とした文で自動詞の受動がよく行われる。

** 週休二日制が普及していなかった時代の例文と思われる。

・ただし、形式主語 es が文頭に来ないとき（ほかの文成分が文頭に来るとき）、この es は必ず省略されることになる、主語のない文ができあがる。

* 文頭に来ない形式主語 es は、いつでも省略するわけではない。ほか省略可能な場合については、教科書 S. 58 を参照。

（受動）Bei uns wird es auch samstags gearbeitet. / Auch samstags wird es bei uns gearbeitet.

私たちのところでは土曜日にも働く。

* それぞれ bei uns、auch samstags を文頭に出した場合。

* なぜわざわざ自動詞の受動のような書き方がなされるのかというと、動作主体を背景化するためである。Bei uns arbeitet man auch samstags.では事実上「うちの会社の職員は～」というニュアンスが強く出る。一方、Bei uns wird auch samstags gearbeitet.では、単に「我々の職場＝土曜も非休日」と事実がニュートラルに述べられているだけである。

・一方、文頭に出せる要素がないときは、先の原則通りの、形式主語 es を使う文をつくるしかない。

（能動）Man plauderte und lachte.

人々はおしゃべりしたり笑ったりした。

（受動）Es wurde geplaudert und gelacht.

おしゃべりしたり笑ったりした。

* plaudern は「おしゃべりする」、lachen は「笑う」、いずれも自動詞。

** この文にほかの要素、例えば副詞 gestern が入っていれば、それを文頭に出して es を省略した文をつくれる（下記）。

（受動）Gestern wurde es geplaudert und gelacht.

昨日はおしゃべりしたり笑ったりした。

◇ 英語と同じく、自動詞＋前置詞の熟語でも自動詞の受動が現れる。

（能動）Man diskutiert oft über dieses Buch.

人々はこの本についてよく議論する。

（受動）Es wird über dieses Buch oft diskutiert. / Über dieses Buch wird es oft diskutiert.

この本については、しばしば議論される。

（英語）This Book is often talked about.

* なお、ドイツ語の diskutieren と異なり、英語の discuss は他動詞である。

6 状態受動（S. 57）

◇ 状態受動（～されてある）は、sein＋過去分詞によってつくられる。語順は動作受動と同じ。

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	sein の現在人称変化形	…	過去分詞

* 英語の動作受動＝be＋過去分詞との混同に注意。ドイツ語の場合、動作受動はあくまでも werden＋過去分詞である。

** sein 支配の動詞の現在完了も sein＋過去分詞だが、状態受動に用いられるのは他動詞、sein 支配の動詞は必ず自動詞。

（状態受動）Das Museum ist montags geschlossen.

博物館は、月曜日には閉まっている。

（動作受動）Das Museum wird um 21 Uhr geschlossen.

博物館は 21 時には閉められる。

■ 参考：nicht の位置の考え方

◇ nicht の位置については、部分否定の場合は比較的簡単に説明できる（否定したい要素の一つ前）のに対して、全否定では文末に置かれるときと文末には置かれないうきの 2 パターンがあり、かなりわかりにくかったと思う。ここでは、そのあたりを納得できなかった人のため、もう少し筋道立てた解説を行う。もちろん、いまの段階では完全に理解する必要はないので、ここを読むのはあくまでも努力目標としておく。

◇ nicht の位置を理解するコツは、不定詞句から考えることである。不定詞句については授業第 3 回で触れたが（配付資料 S. 1-2）、復習すると、不定詞句とは主語を含まない文の構成要素であり、日本語とほぼ同じ語順（副詞（句）－目的語／述語内容語－動詞（不定詞））をとる。

◇ まず、「その本を買う」の不定詞句と、その否定「その本を買わない」の不定詞句を考えてみよう。このとき、部分否定の場合と同じく、nicht は否定したい要素の一つ前に入れる（この場合は動詞の）。

das Buch kaufen
その本を買う
das Buch **nicht** kaufen
その本を買わない

次に、主語 er を加えて、「その本を買わない」の方の不定詞句を文にしてみる。最後の不定詞句を定詞第 2 位の位置に持ってきて人称変化させるので、

das Buch **nicht** kaufen
← ← ← ←
Er kauft das Buch **nicht**.
彼はその本を買わない。

となって、nicht が文末に来る文ができるわけである。

◇ 同じ作業を、話法の助動詞や現在完了の不定詞についてやってみよう。なお、完了不定詞は「過去分詞 haben / sein」である（教科書 S. 50）。

heute kommen können
今日は来られない
heute gekommen sein
今日は来なかった

さて、これらを否定するときも、nicht は原則的には否定したい要素の一つ前に入れるのだが、kommen können（不定詞＋話法の助動詞）や gekommen sein（過去分詞＋haben / sein）は分かちがたく結びついていて切り離せないため、nicht を割って入れることはできず、その一つ前に入れるしかない。そうしてつくった不定詞句に主語を加えて文にしたのが、nicht が文末に来ない次の文である。

heute **nicht** kommen können
← ← ← ← ← ←
Er kann heute **nicht** kommen.
彼は、今日は来られない。

heute nicht gekommen sein

← ← ← ← ← ←

Er ist heute nicht gekommen.

彼は、今日は来なかった。

◇ 不定詞句において、分かちがたく結びついている2要素のあいだに nicht が割って入れないのは、上記「不定詞＋話法の助動詞」や「過去分詞＋haben / sein」のほか、下記が該当する。

- ・分離動詞の前綴り＋基礎動詞

heute nicht mitkommen

← ← ←

Er kommt heute nicht mit.

彼は、今日は一緒に来ない。

- ・述語内容語＋sein

nicht krank sein

← ← ←

Ich bin nicht krank

私は病気ではない。

- ・位置や移動の目的地を表す前置詞句＋動詞

nicht in München wohnen

← ← ← ← ←

Er wohnt nicht in München

彼はミュンヘンには住んでいない。

- ・熟語における前置詞句＋動詞

sich nicht für moderne Kunst interessieren

← ← ← ← ← ← ←

Sie interessierte sich nicht für moderne Kunst.

彼女は現代美術には関心がなかった。

- ・熟語における自立性のない目的語＋動詞

nicht Bescheid wissen

← ← ← ←

Ich weiß nicht Bescheid.

私には事情がわからない。

よって、これらの不定詞句から文をつくるとき、nicht は文末には来なくなる。

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<https://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>